

10組 道徳指導案

- 1 主題名 食と命のつながりを考える〔内容項目D-（19）：生命の尊さ〕（1時間完了）
〈資料名 絵本「いのちをいただく」著：原案 坂本義喜
作 内田美智子（講談社）を参考にした自作資料〉

2 ねらい

主人公の今まで育ててきた牛への思いを確認したうえで、「いただきます」「おいしい」という言葉に注目して考えることを通して、自分たちも、毎日食べている食材から大切な命をいただいていることに気づき、一つ一つの生き物の命を尊重する気持ちを育てながら、食べ物に感謝して食事をしていこうとする道徳的実践意欲を高める。

3 ねらいとする道徳的価値

普段の給食での様子を見てみると、食事に対する感謝の気持ちを表出する生徒は少ない。目の前に料理が用意された場合、真っ先に考えることは、それに対する好き嫌いである。そこにある一つの食材の命に注目することはまずない。

食事をする際に「いただきます」と言うのは、その食材の命を尊重する気持ちやその食事ができあがるまでにかかわってくれた人の努力に対する感謝の気持ちを表すものである。生徒は、これまでの生活の中で、料理してくれた母親に感謝して食べるという経験はしているであろうが、食と命のつながりまでを考える機会はあまりなかったであろう。本時を通して、食には命が密接にかかわっていることを実感し、食事に対して感謝の気持ちをもつことができるようにしたいと考えた。

4 ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

（1）学級について

本学級の生徒は、給食の時間をたいへん楽しみにしている。朝から献立表の前に立って、その日のメニューを読みあげていることさえある。好きなメニューが献立に入っていると、喜んで級友や教師に伝えている。会食も和やかに行えており、生徒にとって、給食はリラックスできる大好きな時間となっている。しかし、食事の様子をよく見てみると、好き嫌が多く見られたり、ご飯粒を皿にたくさん残した状態で食事を終えたりする生徒もいて、食べ物に対してのありがたみが感じられないことが多い。また、級友との会話の中で、「死ね」「殺す」「消えろ」などの心ない言葉を面白半分で言う生徒がいて、命を尊重する気持ちが育っていないことを感じるときもある。

そこで、本時では、生徒もよく食べているであろう「牛肉」に視点を当てた自作資料をもとにして、食と命のつながりについて学び、口に入れている肉はただの肉ではなく、命があったものであることを感じ、これからの生活の中で命あるものへの感謝をしながら食事をしていこうとする意欲を高めていきたい。

（2）生徒の実態と個人目標（次々ページ参照）

5 資料について

（1）資料の概要

（a）「いのちをいただく」をもとに授業者が一部改作

主人公のひかりは、5歳のころに生まれた仔牛のラブを自分の友達だと思って大切に育ててきた。しかし、ひかりが11歳になるころ、ラブは、乳牛としての勤めを終えるときがやってきた。乳牛としての役割を終えたラブは、牛肉として売られることになる。家族が暮らしていくためには仕方がないのだとひかりは父に諭される。ひかりは、泣きながらラブとお別れをする。後日、ラブの肉

の一部を父が持って帰ってきた。その肉を使って母はすきやきを作る。ひかりは、最初、泣いて食べようとしなかったが、「ラブのために、食べてやれ」という父の話を聞いて、泣きながらも「いただきます」をし、「おいしい。おいしい。」と言ってその肉を食べたのであった。

(b)「黄金の魚ークレー」(作 谷川俊太郎)

※ドイツのクレーという画家の「黄金の魚」という絵につけられた詩

おおきなさかなは おおきなくちで
ちゅうくらいさかなを たべ
ちゅうくらいさかなは
ちいさなさかなを たべ
ちいさなさかなは
もっとちいさな
さかなを たべ
いのちはいのちをいけにえとして
ひかりかがやく
しあわせはふしあわせを やしないとして
はなひらく
どんなよろこびのふかいうみにも
ひとつぶのなみだが
とけていないということはない

(2)「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

①資料との対話をさせるための手だて

生徒が話を正しく理解するための手助けとして紙芝居を利用する。紙芝居は発問場面に合わせて黒板に掲示をする。このように視覚支援を加えることによって、発問の内容以外で迷うことをなくして、考えさせたい内容に集中ができるようにする。また、主人公を客観的に見て自分の考えを述べる場面では、紙芝居の絵にせりふの吹き出しをつけて、自分がその場に居合わせたかのような状況をつくり上げ、考えが浮かびやすくする。主人公の気持ちを考える場面では、掲示する紙芝居のひかりの絵の頭上に何も書かれていない吹き出しをつけることで、ひかりの気持ちに寄り添って考えられるようにする。

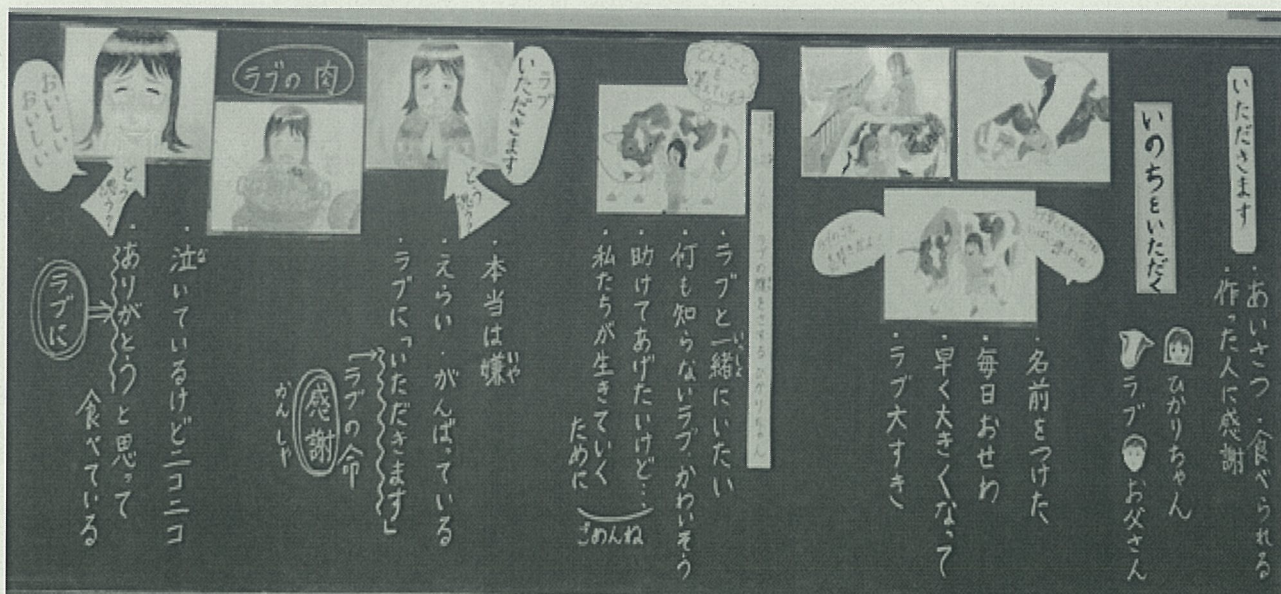
②他者との対話、自己内対話をさせるための手だて

食事の始めの「いただきます」という言葉の意味を授業の初めに考えることによって、ひかりちゃんの「いただきます」と、普段の自分の思いとを比較して考えることができるようにする。

「『いただきます』『おいしい』と言っているひかりちゃんをどう思うか」という最後の発問の場面では、「いただきます」の場面と、「おいしい。おいしい。」と言っている場面とに分けて考えさせる。それぞれの場面に分けて考えさせるを分けて発問することで、「命をいただくこと」と「それに感謝しておいしく食べること」の両方に言及し、自己を振り返ったり、今後の自分につなげたりしていけるようにする。

発問に対する考えを聞く際には、状況を理解するのに時間がかかる生徒Bを一番最初に意図的に指名し、紙芝居のひかりちゃんの表情に注目させながら意見を聞く。「悲しい」「うれしい」などの言葉が出てきたら、「なぜ悲しいのかな。」など、理由を本人や他の生徒に問い直し、考えを深めさせる。生徒Bの意見をもとにすることで、他者の意見を聞きながら自分の考えを深めることができるようにする。

6 板書計画



生徒の実態と個人目標

	生徒の実態	本時の目標	手だて	評価
生徒A	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかな性格で、一人一人のいいところを探しながら学校生活を送ることができている。 ・ペースはゆっくりであるが、給食を残さず食べている。嫌いなものも、励まされるとがんばって食べようとする。 ・自分の意見をまとめるのに時間がかかるが、ねらいとする価値に迫るような発言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いただきます」という言葉には命を「いただく」という意味も含まれていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒Bとすきやきの肉がラブの肉であることを確認した後に指名し、「何をいただく」のか考えさせ、「命をいただく」という発想に結びつけることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いただきます」という言葉には命を「いただく」という意味も含まれていることに気づくことができたか、発言の様子から判断する。
生徒B	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸部に所属し、花や野菜の世話を進んで行き、収穫を楽しみにしている。 ・給食は、好き嫌いなく食べている。しかし、皿に食べ物が残ってしまうことが多く、指摘されないと、そのまま片づけてしまうことがある。 ・話の内容を理解するのに時間を要する。紙芝居の絵をヒントにして、自分の意見をまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食と命のかかわりを感じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひかりちゃんが食べるすきやきの肉は、ラブの肉であることを確認することで、ラブの命をいただいていることを意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食と命のかかわりを感じることができたか、中心発問での発言や、それにかかわる他の生徒の意見へのうなずきから判断する。

	生徒の実態	本時の目標	手だて	評 価
生徒 C	<ul style="list-style-type: none"> ・相手によって態度を変えることなく、誰とでも仲よく過ごすことができる。 ・給食では、嫌いなものが多く、減らすことができる食材は、よく減らしている。減らすことが不可能な牛乳は、お茶を一緒に口に含めながらがんばって飲んでいる。 ・「こうすべき」という理想が自分の中に強くあり、本音が出せないこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食と命のかかわりを感じ、感謝をして食事をしようとする気持ちを高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心発問で、ひかりちゃんについて考えた後「自分だったらどう思うかな? どう思うかな?」と補助発問をすることで、主人公の行為を自分のこととしても考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食と命のかかわりを感じ、感謝をして食事をしようとする気持ちを高めることができたか、終末の振り返りの記述から判断する。
生徒 D	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生物に興味を示し、親しみをもって接することができる。 ・普段の生活は落ち着いているものの、友達とけんかした際に、「死ね」「殺すぞ」など脅しのような言葉を使うことがある。 ・給食は大好きで、残さず食べている。苦手だったトマトも自らが畑で育てたものを食べたことにより克服しつつある。 ・発問に対していろいろな視点から考えることができ、級友たちに新しいものの見方や考え方を提示することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命の重み、大切さに気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひかりちゃんがなぜラブの肉を食べる決心をしたのか尋ねることで、ラブの命を尊重する主人公の気持ちに気づくことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命の重み、大切さに気づくことができたか、発言の様子や振り返りから判断する。

7 本時の展開

時間	学 習 活 動	※教師支援 ☆評価
	<p>「いただきます」をするとき、どんなことを考えているのか。</p> <p>あいさつだから何も考えていない。</p> <p>「いただきます」をすれば、ご飯が食べられる。</p> <p>料理を作ってくれた人に感謝をしている。</p> <p>作物を作ってくれた人に感謝している。</p>	<p>※中心発問で、ひかりちゃんの「いただきます」と自分の違いを比べられるように生徒全員に聞いて、生徒の考えを板書に残しておく。</p> <p>☆自分がどんな気持ちで「いただきます」をしているかを思い出して、発言できたか。(発言の様子)</p>
3	○紙芝居「いのちをいただく」を聞く。	※発問にかかわる場面の紙芝居を黒板に貼ることで、考えを想起しやすくし、話し合いに積極的に参加できるようにする。
8	○ひかりちゃんが、ラブのことを大切に思っていることがわかる紙芝居の場面や言葉を取り返し確認する。	
10	<p>涙を流しながらラブの腹をさすっているひかりちゃんは、どんなことを考えているのか。</p> <p>ラブとおわかれしたくない。これからも一緒にいたい。</p> <p>自分が殺されてしまうことを知らないラブ。かわいそう。</p> <p>ラブが死んじゃうのは嫌なのに、助けてあげられなくてごめんね。</p> <p>ラブはみんなのためにいっぱいお乳を出してくれたのに、ごめんね。</p> <p>私たちが生きていくために、ごめんね。</p>	<p>※「早く大きくなってね」「大好きだよ」などのせりふを紙芝居と一緒に黒板に貼りひかりちゃんがラブを大切に思っていることが理解できるようにする。</p>
20	<p>「いただきます」「おいしい」と言っているひかりちゃんをどう思うか。</p> <p>「いただきます」について</p> <p>苦しそう。嫌なのに我慢してそう。</p> <p>えらい。涙を流しながらがんばっている。</p> <p>「いただきます」と手を合わせていると思う。(①) (②)</p> <p>「おいしい」について</p> <p>悲しそう。無</p> <p>泣いているけ</p> <p>ありがとう</p>	<p>※紙芝居の絵のひかりちゃんに吹き出しをつけることでひかりちゃんのお気持ちに寄り添うことができるようにする。</p> <p>☆大切な存在のラブが肉になってしまうときのひかりちゃんのお気持ちに寄り添うことができたか。(発言の内容、発言のときの表情や声色)</p>

理して食べている。

どにこにこしている。不思議。

思って食べているのかな。
(①) (③)

みんなの「いただきます」とひかりちゃんの「いただきます」を比べてみると、何が違う。

ひかりちゃんは、泣きながら言っている。

ひかりちゃんは、ラブのことを思っている。

ひかりちゃんは、命への感謝の気持ちがある。

40 ○紙芝居「黄金の魚」(谷川俊太郎の詩)を聞く。

谷川俊太郎の詩の紙芝居を通して、魚からも命をいただいていることに気づき、食材への感謝を感じる。

最後に、「給食の時間にも命をもらっているんだね。みんなは、今日の給食で、何の命をいただいたのかな。」と投げかけることで、これからの生活の中で、いただく命に感謝しながら食事ができるよう意識を高める。

○振り返りをする。

「いのちをいただく」のお話や友達との話し合いを通して、存在した命を感じ、毎日食べている食材から、大切な命をいただいていることを知り、食べ物に感謝して食事をしようとする気持ちを高める姿。

※「いただきます」の場面について考えさせた後で、「おいしい」と言っている場面について考えることで、「命をいただくこと」と「それに感謝しておいしく食べることを意識できるようにする。(①C: 焦点化する)

※自分の思いを言葉にするのに時間がかかる生徒Bを一番先に意図的に指名し、紙芝居のひかりちゃんの表情に注目させながら意見を聞く。「悲しい」「苦しい」などの言葉が出てきたら、理由を本人や他の生徒に聞き、考えを深められるようにする。

※命を意識した発言がでないときは、「いただきますのいただくとは、何をいただくのかな。」と問いかけ、ラブの命をいただいていることに気づけるようにする。(②C: 気づかせる)

※泣きながら笑顔を見せるひかりちゃんを不思議に思う発言が出たら、「どうしてだと思う?」と本人や他の生徒に聞く。

(③E: 切り返す)

☆ラブの命をいただいていること、そんなラブに感謝しながらひかりちゃんは食べていることに気づくことができたか。(発言の内容、発言のときの表情や声色)

授業の視点

① ひかりちゃんのラブへの思いを確認したうえで、「いただきます」「おいしい」という言葉に注目して考えさせたのは、自分たちが食事で口にすることは、大切な命をいただいている事実があることに気づくうえで有効であったか。

- ② 食事の始めの「いただきます」という言葉の意味を授業の初めと、中心発問でのひかりちゃんの「いただきます」の場面とで二度考える。その思いを比較して考えることが、食べ物に対して感謝する気持ちを高めるうえで有効であったか。

いのちをいただく

ひかりちゃんは、5歳の女の子です。

ひかりちゃんの家では、たくさんの牛を飼っています。

ひかりちゃんは、いつも牛の鳴き声を聞きながらお外で遊んでいます。

ある日、お父さんが、あわてているので

「お父さん、どうしたの？」

とひかりちゃんは、聞きました。

「ひかりちゃん、今から牛の赤ちゃんが生まれるんだよ。」

と教えてくれました。

「ひかりちゃんも、いっしょにくる？」

「うん！」

ひかりちゃんは、はりきってお父さんの後をついて行きました。

「ひかりちゃん、さあ赤ちゃんが出てくるよ。」

メスの赤ちゃんが誕生しました。

「うわあ！やったね！お母さん牛ががんばったね。」

「ねえ、お父さん、この子に名前をつけてもいい？」

お父さんは、少し考えてから…

「いいよ。どんな名前にする？」

「う～ん。じゃあ『ラブ』にする！」

「ラブ、これからよろしくね。」

その日から、ひかりちゃんは、毎日ラブのところに行きました。

「ラブ、早く大きくなってね。ひかりといっばい遊ぼうね。」

ひかりちゃんは、毎日ラブに声をかけました。

ひかりちゃんは、ラブのお世話を一生懸命しました。

ラブにお乳をあげたり

ラブの体をふいてあげたり

ラブもそんなひかりちゃんに、なついて

ひかりちゃんがやってくると、あまえた声を出します。

ひかりちゃんも、ラブも一緒に成長していきました。

ラブは、すっかり大人の牛です。

ラブは、みんなに おいしい牛乳をプレゼントしてくれます。

「ひかりは、ラブのことが大好きだよ。」

ひかりちゃんは、今でもラブと仲良しです。

ラブの赤ちゃんも産まれました。

そして、ラブもだんだんと歳をとってきました。

そして、ひかりちゃんは、11歳になりました。

ある日、お父さんは、ひかりちゃんを事務所に呼び出しました。

ひかりちゃんは、お父さんの話を聞いて、泣き出してしまいました。お父さんは、ひかりちゃんに時間をかけてじっくりと話をしました。ひかりちゃんは、涙をぽとぽと落としながら、ぼそっと「わかった。」と言って部屋を出ていきました。

ひかりちゃんは、急いでラブのもとへ行きました。

「ラブ、ごめんねえ。ラブ、ごめんねえ。ラブを売らないとみんながくらしていけないんだって。お乳が出なくなった牛は、お肉にするために売らないといけないんだって。ラブだけ特別扱いはできないんだって。ごめんねえ。ラブ、ごめんねえ」
そう言いながら、いっしょうけんめいに、ラブの腹をさすりました。

それから1か月たち、ラブを食育センターに連れて行く日がきました。

ひかりちゃんは、ラブに近寄り、

「ラブ。ひかりは、ラブのこと忘れないからね。ラブと一緒にいれて楽しかったよ。ラブ、今までありがとうね。」と、ラブの腹をさすりながらお別れを言いました。

「ひかり、そろそろラブを連れて行くよ。」

お父さんは、ラブを連れて行きトラックに乗せました。

「ラブ、ごめんねえ。ごめんねえ。」

ひかりちゃんは、ラブに小さく手をふりながらお別れをしました。

後日、食肉センターから帰ってきたお父さんが、ひかりちゃんに言いました。

「実はな、ラブの肉を少しもらって帰ってきたんだ。お母さんが、今『すきやき』を作ってくれているよ。みんなで食べよう。」

ひかりちゃんは、泣きながら「食べれない！」と言って首を横にふりました。

「ひかり、ラブのおかげで、みんながくらせるんだよ。食べてやれ。ラブに、ありがとうって食べてやらなきゃ、ラブがかわいそうだぞ？食べてやれ」と、お父さんはひかりちゃんに話しました。

ひかりちゃんは、泣きながら「ラブ、いただきます」と手を合わせました。

肉を口に入れると、「おいしい、おいしい。今まで食べた中で一番おいしいよ。」と言って、食べました。

お父さんは、「そうだな。おいしいな。ひかりは、たくさん食べてももっともっと大きくなるんだぞ。」お父さんは、優しい笑顔を見せながら、そう言いました。